

2024年(令和6年)の年頭のご挨拶

(一財)長崎県剣道連盟 会長 灰谷達明



2024年の新年を寿ぎますとともに、長崎県剣道連盟の更なる飛躍を祈念してご挨拶を申し上げます

昨年は、未だコロナ禍の終息が見えないこと、ウクライナ侵攻問題が難局を迎えている等々危惧すべきことを冒頭で述べましたが、本年の見通しも必ずしも楽観的で明るいことばかりではないようです。

しかしながら、ここにきてコロナ禍の猛威によりやく収束の道筋が実感され、面マスクを外しただけで、これほど呼吸が楽なのかと思ひ知らされました。

日々の稽古や各種行事が徐々に復活し、従来の活気を感じる事が多くなって喜ばしいことですが、更に気を引き締めて参りましょう。

一方で“禍を転じて福と為す”数年来指摘されてきた鏝競り合いの乱れが、コロナ禍における暫定的な試合審判法により、速やかに技を出し、分かれ、間合いを取るという方向性が確立されて参りました。

さて、本県の剣道界に目を移しますと、昨年の島田貴文先生に続き、藤原昌史理事長が悲願の剣道八段合格を果たされ、誠に大きな希望の灯を燈していただくこととなりました。

また、若い力の生気みなぎる活躍～全日本都道府県対抗少年優勝(中学の部)大会優勝、全国定時制・通信制高等学校剣道個人戦優勝中山敬心(佐世保工業高校定時制)、全国高等学校剣道競技大会男子個人3位戸田優人(長崎南山高校)、特別国体剣道競技少年女子準優勝(長崎県チーム)、玉竜旗高等学校剣道大会における長崎南山高等学校準優勝の活躍は見事でした。

剣道以外でも、長年にわたり、杖道界を支えてこられた橋本幸一会長の杖道七段ご昇段、全日本居合道大会(六段の部)3位入賞の畑中健佑選手等着実な成果を示していただきました。

数々の大会や試合での活躍は本県における会員皆様の日々の努力の賜物と敬服するところでございます。県内4か所で開催しております合同稽古会では年々参加者が増える傾向がみられ、充実した稽古が認められます。

剣道人口の減少は正に喫緊の課題であり、剣道人口が共有するところでございますが、地域の職域の稽古が活気に満ち、楽しく良き汗をかくことこそが、剣道の良さを広める最大の戦略と確信するところでございます。

ウサギ年の昨年に劣らず、辰の如く飛躍して参りましょう。



特別国体剣道競技少年女子準優勝
(長崎県チーム 少年女子の部)



全国日本都道府県対抗少年大会優勝
(長崎県チーム 中学生の部)



玉竜旗高等学校剣道大会 準優勝
(長崎南山高等学校)

